

保険薬局-病院間における入退院時の薬剤情報共有について

【対象患者】

当院に手術・検査目的で入院予定の患者

【入退院支援における薬剤師の役割】

- ① 薬局での服用薬剤の情報収集および適正化
- ② 薬局での持参薬の整理
- ③ 薬局から病院へ服用薬剤に関する情報提供
- ④ 病院から薬局への服用薬剤に関する情報提供
- ⑤ 退院後の服用薬剤に関する副作用モニタリングの依頼

【薬薬連携による入院支援の流れ】

当院では手術・検査目的で入院予定の患者を対象に包括的に服用薬剤に関する情報提供を求めています。

○薬局薬剤師の役割

- ・服用薬剤の調整、服用薬剤に関する情報収集を行う。
- ・入院時に持参する必要がある薬剤を患者へ説明する。手術や検査予定で入院前の中止薬がある場合は中止薬の確認・指導をする。
- ・入院日までに入院時施設間情報連絡書を当院薬剤部宛に FAX する。

【薬薬連携による退院支援の流れ】

○当院薬剤師の役割

- ・薬局から入院支援のあった患者の最新の服用薬剤について情報提供する。
- ・入院中に開始となった薬剤で退院後に継続した副作用モニタリングが必要な薬剤については薬局へ情報提供する。

○薬局薬剤師の役割

- ・最新の服薬情報を当院以外のかかりつけ医等と共有する。
- ・副作用モニタリングを行い、必要に応じて当院薬剤部と情報共有する。

【持参薬の整理に関するお願い】

入院時に持参した薬剤において、下記のケースが多数見受けられます。その場合、入院時の持参薬鑑別や服用薬剤の調整等に時間がかかり、患者の正確な服用薬剤の情報が得られず入院後の薬物治療に影響を及ぼすことがあります。患者が入院される前に、残薬整理、服薬状況の確認および再度の服薬指導をお願い致します。

- ① 異なる薬剤が混在して保管されている。
- ② 服用方法を誤認、もしくは自己判断で変更し、処方と異なる用法で薬袋やケース等に保管されている。
- ③ 過去に服用していた薬剤を持ち込まれる。
- ④ 使用期限が切れた薬剤を持ち込まれる。
- ⑤ 残薬を大量に持ち込まれる。
- ⑥ 服用中の薬剤の一部が持ち込まれない。
(特に点眼薬、外用薬、注射薬が持ち込まれないケースが見受けられます)
- ⑦ 術前中止指示のある薬剤が継続されている (1 包化含む)

2023 年 3 月作成
帝京大学医学部附属病院 薬剤部